

■ 目標値未達成の要因について

法人名	堺泉北埠頭株式会社
-----	-----------

〔1〕

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
売上高	千円	2,693,230	2,688,808	△ 4,422

※ 下記①・②の減少要因のあった一方、ストックヤードにおける中古車の保管期間が長期化したこと等による増加要因（約30,000千円の増）により、差引4,422千円の差となった

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応		
①	青果事業の売上減少			<p>・青果事業は、専用船輸送（大量輸送）からコンテナ輸送（小口輸送）への転換による、専用船隻数減少（R3年度:7隻→R4年度:1隻）及び、円安進行・海上輸送費高騰など、輸入コスト上昇による物価高の影響などにより、国内消費が抑制されていることが、減少要因の一因となった。</p>						<p>・国内に於ける青果物の消費を取り巻く社会情勢は大きく変化し（単身世帯増加・食の多様化等）、国内消費も年々減少しており、輸入における輸送手段も専用船（大量輸送）からコンテナ（小口輸送）へと転換されている。今後の対応として、港運事業者と連携し、輸入主要品目であるトラス類の多様な産地からの集荷強化に努めていく。</p> <p>・一方で、国は農林水産物・食品の輸出拡大に向けて、2030年までに輸出額5兆円を掲げており、当センターにおいても輸出促進に向けた取り組みを行うため、国の補助制度（農林水産物・食品輸出促進基盤整備事業）を活用し、コールドチェーン確保のため第2定温上屋に、エアシールド等を設置した。今後とも施設利用者と共に、貨物取扱量の増加を目指していく。</p>	
	関連項目名	売上高	単位	千円	R4当初想定値	316,376	R4実績値	286,827	差		
②	埠頭運営事業の売上減少			<p>・自動車船については、船社が中古車から新車積載へ注力し、日本からの抜港や減便が生じたこと、用船料高騰による運航隻数の削減、豪州港における中古車輸入の検査規模に起因する長期の滞船などが要因となり、入港隻数が減少した。</p> <p>・上海ロックダウン（令和4年）による上海港でのコンテナ船の停滞、それに伴う配船変更などが要因となり、堺泉北港におけるコンテナ取扱貨物量が減少した。</p> <p>・自動車船の入港隻数減、コンテナ貨物取扱量の減少により、岸壁使用料、荷役機器使用料が減収となった。</p>						<p>・今後の対策として、引き続き中古車輸出機能を強化（関連施設用地使用料の減免措置、中古車保管ヤードの拡張整備等）する。また、大阪港湾局とともに積極的な営業活動（自治体、関係団体等と連携したセミナーの開催、船舶大型化・増備、新規航路開設による拡充に対する岸壁利用料の減額など独自の優遇制度の活用等）を展開していく。</p>	
	関連項目名	売上高	単位	千円	R4当初想定値	706,746	R4実績値	701,607	差		